

山行報告 四郎岳、戸神山～高王山

【参加者】 CL 柘植秀樹 SL 鈴木憲二 澤田路子（記録）



【記録】

☆11月12日（土）四郎岳（2156m）

丸沼駐車場 9:40 → 10:55 四郎峠 → 12:10 四郎岳山頂 12:40 → 14:30 駐車場

丸沼の駐車場に車を止め、脇に流れ込む四郎沢を渡り踏み跡やテープをたよりにスタート。本日は気温も上がり、予報では午後から晴れるという。とはいえ朝方まで雨だったのか、トップに行くリーダーはかなりの露払い状態でごめんなさい。しばらくはテープを探しながら倒木をくぐったり、またいだり、背丈までの笹を掻き分けたり、浅い沢を何回か渡ったり、ずーっとこんな調子？と思ったら合間にしつかりした路も出てくる。足元は雪が残っていて、そういえば途中の道路も除雪の形跡があったっけ。



いつの間にか四郎沢もきれいな滑状になり陽射しも出てきて、ちょっと気分が浮き立つ頃、小尾根に取り付く。四郎沢を遡行する人もいるとか。このあたりの人知れない山の雰囲気にそぐうように、枯れた立木に取りつけられた手書きの趣ある道標を見つけて一安心。紅葉も盛りを過ぎた晩秋の山によく似合う。沢が二俣になるところで左の沢沿いの尾根を登っていくが高度を上げる程雪がしっかり残っている。1時間程でひと汗かいた頃に四郎峠に出ると風が冷たく慌てて一枚着込む。ここからは山頂へ続く尾根道になるが、程なくかなりの急登が始まる。半端に腐った雪はその下の落葉とともに滑りやすく下りが面倒そう。深いところはくるぶし位まで雪があり、ぐんぐん高度をかせいでいっきに山頂へ。開けているのは一角だけでそう見晴らしのいい山頂とはいえないが、ありがたいことに大休止の間にどんどん雲が切れて青空になり、その一角から真近に雄々しく雪のついた日光白根がすっきり見えてきて、毎年訪れる雪山だがあらためてほれぼれする。



予報通りだんだん晴れてくる山頂でぼかぼか小春日和の中を30分位まったりした後、往路下山開始。山頂直下は雪が締まっていた思ったより歩きやすいが、心配した通りその後の急斜面は雪が腐って滑りやすく、そこいらの枝や笹、残置ロープもありがたく使って慎重に下る。急斜面を終えてほっとしたところで見渡すと、所々紅や黄色の鮮やかな色彩が眼に飛び込んできて登りとは違う目線の景色で楽しませてくれる。晴れてきたおかげで透明な秋の陽射しが手伝って山の素敵な秋色がフィナーレを飾り、誰にも会わない静かな晩秋の山旅一日目を終える。



「さあー温泉だ！ビールだ！」と早々と本日のお宿の”わたすげの湯”に向かう。車窓からは鮮やかに黄葉した唐松の林が光輝き、お日様の力はすごい！”わたすげの湯”はほんとにここで泊れるのかと思うような、一見蕎麦屋のようなドライブインのような作りだが、温泉付きで、安くて使い勝手も良く、ちば山では何度か利用しているようだが、こんな所を見つけられたどなたかに感謝である。

☆11月13(土) 戸神山(771m) 高王山(766m)

戸神山登山口 7:35 → 8:35 戸神山山頂 9:00 → 9:32 高王山 → 10:15 登山口

当初予定していたのは今季最後の沢登り、笠科川スリバナ沢遡行だった。こちらが本命なので気合いを入れて早々と宿を出たのだが、残念ながら現地まで行ってみると入渓地点へ向かう道路(鳩待峠方面)が冬季閉鎖(後で調べてみると今年は11月7日から冬季閉鎖)になっていて、あえなく断念。

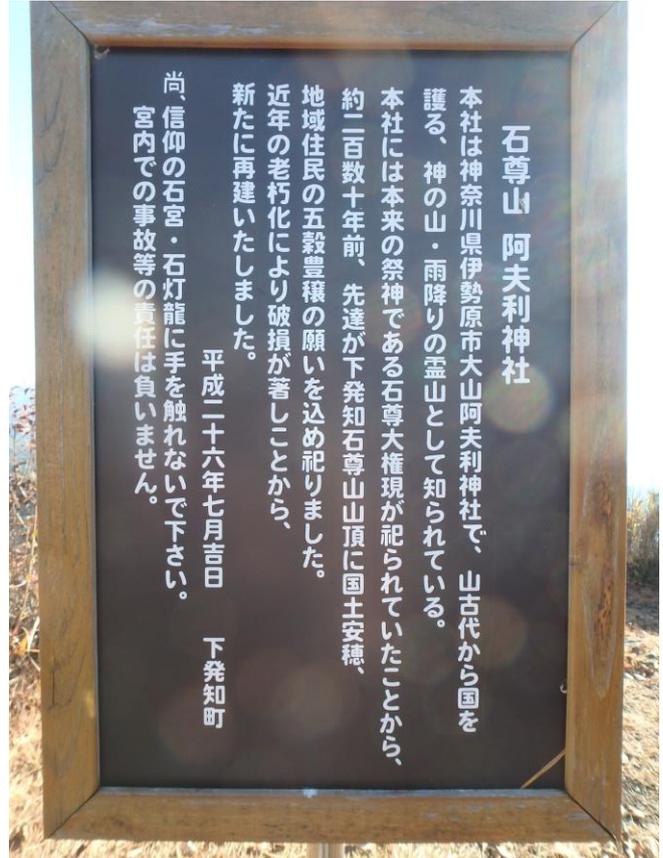
さてどうしようとなったら、さすが柘植リーダー。頭の中に詳細な地図があるらしく「だったらこの近くにある、戸神山と高王山をつないで歩こう」と即代替え案が出てくるのが見事という他ない。ところが目指す山までは近づき、あの山と確認できたものの登山口がわからない。やっと見かけた地元の方に尋ねてもよくわからないとのこと。そこで登場したGPS様を頼りにぎっくり探り当て、付近の空き地に車を置いてスタートしたものの、私はといえば頭の地図もなく、事前情報も予備知識もないので半信半疑で、GPSを手にして歩くリーダーの後をついていくのみ。集落を離れ、道をたどるとすぐに鹿よけと思われる通電している柵があり、その開閉箇所から入る。試しに金属部分に触れるとびりびり。

さらに広い道を進むと戸神山へ1.5k 高王山へ1.5kと書かれたりっばな道標があつてやっと確信がもてた。と思ったらすぐに道はなくなり、樹林の斜面を適当に登り、これがほんとに一般のハイカーが登る道???と思いながら最後はなかなかの急斜面で、大汗かいて正規の登山道に飛び出す。ほどなく高王山との分岐に出て、山頂へ。そう広くない山頂だがりっばな石燈籠や石祠があり、いわれのある信仰の山らしい。真っ白な浅間山、皇海山、谷川岳、上州武尊、子持山などなど360度の展望に恵まれ、昨日と大違いで人も多い。「手軽に登れるのにこんなすばらしい大展望が楽しめるなんて!!」と女性の一人が感嘆の声をあげていたのも頷ける。あとで調べると群馬の百名山とあり、我々が登った所より手前にある虚空蔵尊からちょっとした岩場のあるりっばな登山道を登るのが通常らしい。



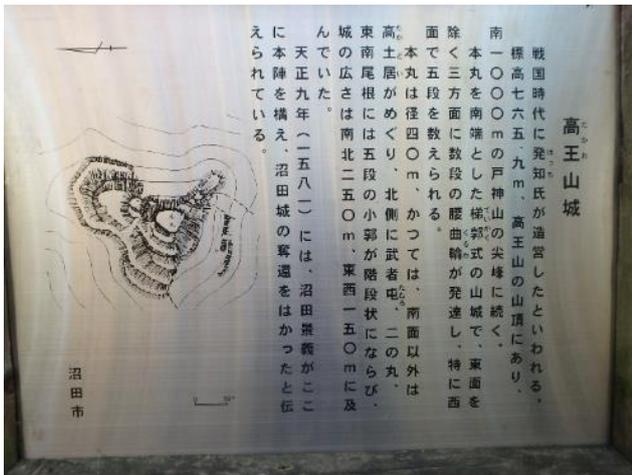


上段：遠く上州武尊山 下段：中央が高王山



戸神山（石尊山）山頂の説明板

分岐まで戻って少し下って林道に続く広場のような所に出るが、帰りはここから石富町へ 1.2k の道を下山するようだ。そこから道標に従ってひと登りするとあまり展望のきかない電波塔のある高王山頂に着くが、長居する感じでもないのですぐに下山開始。先ほど確認した下山路はかなり荒れている様子だったが、最初だけですぐにまともな路になりあっという間に集落に着く。



高王山は昔は山城



高王山の山頂

美味しそうに実る林檎や柿摂り作業をしている地元の人、水みずしく育っている冬野菜の畑や軒下に連なる乾し柿など晩秋の里山の風情を楽しみながら車の所まで戻る。あっけないとはいえ天気と展望に恵まれた、お得感のある 2 時間半の低山ハイクだった。印象的だったのは高王山に向かう登山道の途中の 2~3 か所に、かわいい熊の手書きイラスト入りフライパンとたたく棒がぶらさがっていたこと。熊対策として取付けた中村さんのセンスと温かな人柄が伝わってきてちょっとほっこり気分になった。



フライパンに描かれたクマさん



高王山 戸神山

※ネットから借用した写真

帰りはいつものように道の駅で野菜や林檎のお土産を買って、渋滞に巻き込まれないうちに早々帰葉。メンバーの男性陣は奥様へのお土産が欠かせないので、車中ではしばしお土産談義に花が咲いた。

澤田路子（記録）